

創刊にいたる経過

SME 東京支部 常任顧問 垣野 義昭



SME 東京支部は今年創立 50 周年を迎えました。東京支部の創立時に活躍された方々のほとんどが既に引退されてしまいました。かくいう私も支部創立時にはまだ大学生で、SME という存在自体知りませんでした。その後、SME の活動を知り、まずその名称に興味を引かれました。アメリカには生産加工技術者の学会があり、社会に高く評価されているということを知りました。というのは、日本の大学や学会では学術的な研究に重きが置かれ、工業的な研究はあまり評価されない傾向が色濃くあったからです。

私が東京支部長を 2005 年にお引き受けした時、すでに支部会員はかなり高齢化されており、支部の行事への若手会員の参加が少ないことが気になっていました。その後この傾向はさらに加速し、現在に至っております。

何とかして若手会員の増加を図らないと、支部の消滅に繋がると思い、その方策を考えていましたところ、森支部長から東京支部から Journal を発刊し、海外への日本の生産加工技術の発信とそのため若手会員に論文投稿を呼び掛けてはどうだろうかという提案があり、妙案だと飛びついたわけです。

神戸大学の新進気鋭の白瀬教授に編集委員長への就任のお願いをしたところ、快く引き受けていただくことができました。また、ホームページへの論文掲載（電子版）などの実務作業の担当者を探していたところ、これまで事務局の支援をさせていただいている中村迪彦氏が担当の名乗りを挙げていただき、Journal 発刊のための担当者的人選はスムーズに運びました。

残る課題は、論文がどれほど集まるかです。また、学術的な論文が中心の既存の学会誌との差別化を図る意味もあって、工業的重要性をもつ論文に重点をおいて、それを海外向けに発信することを最優先するために、誌面は英文構成とすることになりました。どの程度のレベルの論文がどの程度集まるかは未知数ですが、この有意義なチャレンジに皆様のご支援を頂ければと願っています。